

患者の皆様の権利に関する宣言

当院では、患者の皆様の尊厳や人間性が尊重され、パートナーシップを強化し、以下の権利が守られることを宣言します。

1. 良質の医療を受ける権利
患者の皆様は、差別されることなく適切な医療を受ける権利を有します。
2. 選択の自由の権利
患者の皆様は、医師や病院或いは保健サービス施設を自由に選択し、変更することができます。また、いかなる段階においても別の医師の意見を求める権利を有します。
3. 自己決定権
患者の皆様は、自分自身に関わる自由な決定を行う権利を有し、それに必要な情報を得る権利を有します。
4. 意思に反する処置
患者の皆様は、意思に反する診断上の処置或いは治療は、原則的に行いません。
5. 情報に関する権利
患者の皆様は、医療上の自己の情報を得る権利を有します。また、知らされずにおく権利と自分に代わって自己の情報の提供を受ける人を選択する権利も有します。
6. 守秘に関する権利
診療の過程で得られた患者の皆様は、全て保護されます。
7. 尊厳を得る権利
患者の皆様は、いかなる状態にあっても人格的に扱われ、尊厳をもってその生を全うする権利を有します。

潤和会記念病院 院長 岩村 威志

記念病院 理念

「人間愛」

記念病院 基本方針

1. 患者様の人権と意思を尊重し、患者様の立場に立った医療の提供
2. 地域の中核的病院として、専門的且つ高度な医療を実践
3. チーム医療を推進し、より良い医療の希求
4. 豊かな人間性を備えた医療人の育成
5. 職員が意欲を持って働ける職場環境

あとかき

衣替えの季節となり、随分と過ごしやすくなりました。髪型を変えてイメージチェンジをしようと考えている方もいるかもしれません。そこで、私が参加しようと思っている活動を紹介します。

「ヘアードネーション」という活動をご存知でしょうか。頭に悩みを抱える子ども達を笑顔にできる取り組みです。病室や事故、がん治療の副作用などで髪を失った子ども達を対象に、カット後の人の毛髪を使った医療用ウィッグを無償で製作し届けるボランティア団体があります。

対象となるのは31cm以上の長さにカットされた髪の毛です。31cm切るとなると髪をだいたい伸ばさないといけないためハードルが高く感じられるかもしれませんが、髪を染めていたりパーマをかけていたりしても団体の方でトリートメント処理を行っており、極端なダメージがなければ問題なく使ってもらえるので誰にでも参加しやすい活動となっています。また、31cmというのは全頭用ウィッグに必要な世界的な基準の長さということですが、31cmに満たなくても美容室での練習に使われるカットマネキンに使用されるなど色々役立つかもしれません。寄付の方法としては、行きつけの美容室でカットし自分で団体へ発送することも可能です。私自身も数年前にヘアードネーションをしたことがあるのですが、その時はこの活動に賛同している美容室でカットしてもらいました。そのため団体への発送等の手続は全て美容室が行って下さり、私は普段通り美容室に行つてカットしてもらっただけで活動に参加することができました。

ヘアードネーションは誰でも気軽に参加できる素敵な取り組みだと思います。賛同美容室は宮崎にもいくつかありますので、興味のある方は一度調べてみてはいかがでしょうか。

潤うるおい

No. 74

2018年 10月1日発行



一般財団法人 潤和リハビリテーション振興財団
潤和会記念病院

病院長 岩村 威志

〒880-2112 宮崎市大字小松1119番地
TEL0985-47-5555 FAX0985-47-8558

http://www.junwakai.com

人生100年時代の人材育成

潤和会記念病院 事務長 高須 澄江



厚生労働省の調査によると、2017年の日本人の平均寿命は男性81.09歳、女性87.26歳で、いずれも過去最高を更新し、男性は初めて81歳を超えたそうです。過去最高の更新は、男性が6年連続、女性が5年連続で、2017年生まれの日本人で90歳まで生きる人の割合は男性25.8%、女性50.2%となり、「人生100年時代」が現実のものになりつつあります。

政府は、人生100年時代を見据えた経済社会システムを創り上げるための政策を検討する会議として「人生100年時代構想会議」を設置し、6月に「人づくり革命基本構想」なるものが取り纏められています。その主な内容は、幼児教育の無償化、高等教育の無償化、大学改革、リカレント教育(学び直し)、高齢者の雇用促進の5項目です。

幼児教育の無償化では、社会保障を全世代型へ抜本的に変えるため、無償化を一気に加速するとあり、その対象を認可外施設にも広げ、平成31年10月から実施される予定です。これは、待機児童解消の取り組みと併せて、女性就業率80%に対応できる体制を構築することが目的のようです。

高等教育の無償化では、所得が低い家庭の子ども達、真に必要な子ども達に限って無償化を実現するとあり、本人の学習意欲が重視されています。

また、基本構想の考え方には、「人づくりこそが次なる時代を切り拓く原動力である。」と明記されていました。これは、当院においても同様です。「人づくり」すなわち、人生100年時代を見据えた今後の人材育成が選ばれる病院であるためには重要な要素なのです。

当院はこれまで、常に最適な医療体制を維持するために、DPC制度の導入、脳神経センター、放射線治療センターの設置、緩和ケア病棟、脳卒中ケアユニットの開設、および最新医療機器等の整備を行い、医療の質の向上に努めてきました。その中で私たち職員が業務レベルの維持・向上を図るための育成方法として、現在はOJT(オンザジョブトレーニング)を行いながら「社会人基礎力」身につけていくのが主流です。

「社会人基礎力」とは、職場や地域社会で多様な

人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力のことで、① 前に踏み出す力(アクション)、② 考え抜く力(シンキング)、③ チームで働く力(チームワーク)の3つの能力です。

では、人生100年時代の人材育成とはどのようなものなのでしょうか。基本は「社会人基礎力」の強化だと考えますが、これから求められる資質として「21世紀型スキル」というものがあります。これは、以下の4つのカテゴリーに分けられた10種類のスキルです。

1. 思考の方法

- ① 創造力とイノベーション
- ② 批判的思考、問題解決、意思決定
- ③ 学ぶことの学習(自律的に学び続ける)、メタ認知(認知プロセスについての知識)

2. 仕事の方法

- ④ コミュニケーション
- ⑤ コラボレーション(チームワーク)

3. 仕事のツール

- ⑥ 情報リテラシー
- ⑦ 情報通信技術のリテラシー(ICTリテラシー)

4. 社会生活

- ⑧ 地域と国際社会での市民性
- ⑨ 人生とキャリア
- ⑩ 個人及び社会における責任(異文化の理解と異文化への適応力)

これらのことを身につけるのは容易ではありませんが、今後は、このことを念頭に置きながら、当院の理念である「人間愛」に基づいた次代を担う人材育成方法の構築に努めたいと思います。そして、それを成功させる鍵は、私を含むベテランと呼ばれる職員の意識改革なのかも知れません。

当院はこれまで、医療を取り巻く環境の変化に敏感に対応して、選ばれる病院へと変革を続けてきました。この先も、地域からは勿論のこと、職員からも選ばれる病院であり続けるためには、様々な変革を繰り返していくことになると思いますが、「変わり続ける記念病院」を皆様に暖かく見守っていただければ幸いです。

神経内科の診療実績紹介と次の10年に備えてのご利用に当たってのお願い

神経内科 部長 矢澤 省吾

2009年4月に鶴田が赴任して稼働を開始した当院の神経内科診療は、2018年に開設から10年目を迎えております。当初は医師1名で始まりましたが、現在6名の常勤医師(6名すべて神経学会認定専門医、1名は宮崎大学の派遣)で診療しています。まずはこの10年間ご利用をいただいた患者のみならず、ご支援とご協力をいただいた関係各位に心からお礼を申し上げます。

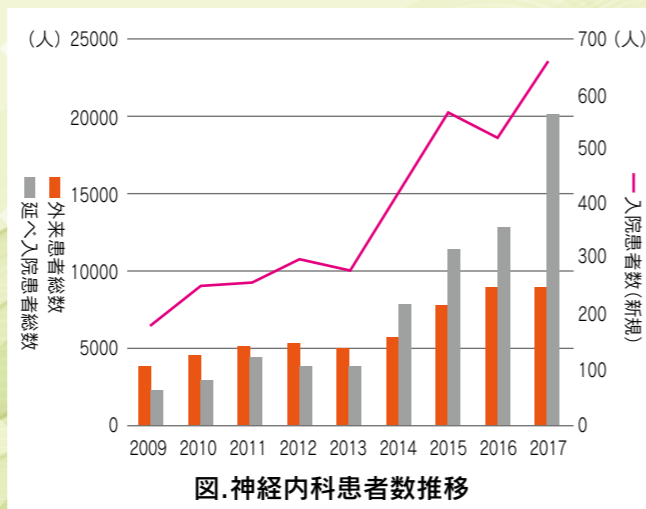
宮崎県内には、入院病床を持ち神経内科専門医が常勤で所属する医療機関が存在する自治体は宮崎市(6病院)、都城市(2病院)、川南町(1病院)のみであり、神経内科専門医6名を有する医療機関は宮崎大学を除けば私たちしかありません。このため、大きな責任を自覚して診療に当たることを心がけております。急性期診療としての脳血管障害、けいれんの受け入れはもとより、医療機関がそれぞれ同じような診療をするのではなく、得意分野を認識してそこを伸ばすべく自己研鑽を積んでまいります。特に成人のてんかん診療、睡眠障害の診療などは地域をリードする診療内容を目指しており、これを5名のよく訓練された神経生理検査技師が支えてくれ、画像診断にも放射線部門の手厚い協力を得ています。また、不幸にしてお亡くなりになった患者さんの病理解剖を行う体制も整っており、診療の質の維持に努めております。さらに当財団の豊富なリハビリテーション能力を地域医療に生かすべく、ロボットスーツHAL®を本年度から導入、パーキンソン患者の姿勢異常にMAB(筋求心線維遮断)療法を開始するなど難病患者に対するあらたな治療も模索しております。加えて、神経疾患は未知の領域が多く残る分野ですので、私たちの力の及ばない領域に対しては宮崎大学などの高次医療機関と連携をとっています。また、常勤の神経内科医が不在である県北の神経内科診療の支援を行う目的で、定期的に延岡市の当財団関連施設で神経内科の外来診療を行っています。以上のような取り組みの結果として、日本神経学会、日本てんかん学会、日本臨床神経生理学会、日本睡眠学会の教育施設として認定されています。

図は過去9年間の神経内科外来・入院患者数の推移を示します。外来患者数は診療科開設時の2倍、新規入院患者数は3.6倍、日数を加味した延べ入院患者数に至っては9倍の伸びを示しています。表に2017年の入院患者の内訳を示しています。脳血管障害、パーキンソン病などの神経変性疾患、てんかんなどの神経内科の診療対象とする疾患が多くを占めています。入院診療についてはこれまでの方向性を維持してまいります。

一方、外来診療に関しては少し異なります。医師不足という言葉が叫ばれて久しく、宮崎県の医療を支えてこられた神経内科医の多くが高齢化し、次の10年に上記に挙げた神経内科常勤医が所属する医療機関はさらに減少することが見込まれます。若手医師育成は診療科による偏りが著しく、神経内科は特に総数の少ない領域です。新規入局者の減少とともに、当院へ宮崎大学から派遣していただいている若手医師は病棟・外来ともこの10月から撤収し1名減となります。これらの状況を踏まえ、来たる10年に現在より少ない人員でも継続的に神経内科医療を提供するために、状態の安定している患者の皆さまを地域の先生方と共同して診せていただくことといたします。皆さまには「かかりつけ医療機関」をまず決めていただき、そちらの医師と連携して診療に当たることをご承知おきください。あわせて、医療機関の先生方ともこれまでよりも密な情報交換を構築できるように努めてまいります。変革を避けては通れない時代となりました。皆さまのご理解をいただけますとたいへん幸甚に存じます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

表. 2017年1月1日-12月31日の神経内科入院患者内訳

脳血管障害	166
神経変性疾患 (パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症など)	93
認知症性疾患(アルツハイマー病、レビー小体病など)	7
免疫性中枢神経疾患(多発性硬化症、脊髄炎など)	29
末梢神経疾患(ギラン・バレー症候群など)	19
筋疾患(多発性筋炎、封入体筋炎など)	9
神経感染症、脳症(脳炎、髄膜炎など)	7
てんかん	72
腫瘍(中枢神経原発性リンパ腫など)	2
中毒性疾患	2
内科疾患	38
その他	177
合計	621



皮膚ケアの大切さ

皮膚・排泄ケア認定看護師 松原 薫

人の皮膚は全身を覆い、身体の中で一番大きい器官です。そのほとんどは水分でできており、蛋白質や脂質などでできています。また、おおよそ14日~28日でターンオーバーを行い、常に新しい皮膚が再生されてきます。しかし、このターンオーバーは年齢とともに長くなり、50日を超えるようにもなり、傷が治りにくくなるのもターンオーバーの延長が影響します。

皮膚の機能として、1つは触覚の感覚器です。同時に刺激の受容により、外部からの刺激を伝える役割があり、これは皮膚にとって1番の特徴です。これにより、暑い、寒い、冷たい、柔らかい、硬いなどの多くの感覚を感じることが出来ます。ほかにも、私たち恒温動物にとっては一定の体温を維持するために重要な役割を担っています。体温が上昇しかけると、皮膚を走る血管が広がり熱を放散し、反対に体温が下がりかけると、血管が収縮し体温が体外へ奪われるのを抑えています。また、汗をかくことは、蒸散する際に気化熱を利用し体温を下げる働きもあります。ほかにも、体を形作る機能やビタミンDの合成、吸収・排泄機能など多く機能があります。しかし、この機能も年齢とともに低下し、暑さを感じにくくなり、汗をかくことも少なくなります。衣服や冷暖房器具で、調整することが大切です。

皮膚は紫外線や年齢により老化していきます。もともと、皮膚にはバリア機能があります。汗と皮脂、角質細胞間脂質によりできる皮脂膜が1次バリアとして、紫外線や刺激物から皮膚を保護しています。しかし、汗や皮脂は季節や年齢により減少します。夏場は皮膚の乾燥を感じることはなくても、冬になると乾燥が著しくなるのは、汗や皮脂の減少が原因です。

現在は、女性だけでなく男性も皮膚ケアに気をつける方が多くなっています。ケアの基本は、洗浄・保湿・保護です。

洗浄は体を洗うことです。その時の注意点は何で洗うかです。石鹸・ボディソープなど洗浄剤に何をを使うかは大切です。私たちの皮膚はpH4~6で、このpHによって細菌やカビから護っています。そのため洗浄剤も弱酸性のものを使う方がいいのですが、石鹸はpH10前後なので、皮脂を取り除くには最適ですが、同時に乾燥の助長にも関係があります。特に高齢者にとって、乾燥はかゆみの原因にもなるため、保湿作用のあるボディソープを使うのも選択の方法です。

保湿・保護は、保湿剤を塗布してもらうことが大切です。体を洗うことで水分や皮脂を取り除いているので、保湿剤を塗って、皮脂膜を作ってあげることが大切になります。尿素が入ったものなど市販されている保湿剤が多く出ていますが、尿素が入っている保湿剤は傷があると痛みが出ますので、その時の皮膚に合わせた保湿剤を選ぶことが必要です。

皮膚は、一番身近にあって、全身にあるものです。これから乾燥が進む時期にあります。自分に合った保湿剤で、皮膚をしっかり保湿・保護してあげることで、痒みも少なくなります。

